

波長可変半導体光 ADM

2000 年（平成 12）、選択波長を自由に設定できる波長可変半導体光 ADM（光分岐挿入）素子を開発した。この素子は独自で新規な構造を持つ半導体導波路を用いた小型の光集積回路であり、10nm 以上広い波長範囲で、任意の波長をアド・ドロップすることができる。また、実用デバイスに要求される低偏光依存性や高いクロストーク特性が実現されており、将来の光ネットワーク用の光デバイスとして期待されている。

出典：KDD 社史